

令和2年度 第1回地域家庭教育推進会津ブロック会議

1 開催日 令和2年6月30日(火) 14:20~17:00

2 会場 ルネッサンス中の島(会津若松市上町)

3 出席者(敬称略)

鶴見常夫	総務省 福島行政監視行政相談センター行政相談委員会津地区理事
鈴木康弘	北会津地区PTA連絡協議会会長
東海林和宏	耶麻地区小中学校PTA連絡協議会会長
唐司和彦	北会津小中学校長協議会会長
渡部陽子	学校保健会北会津支部養護教諭部部长
大越ひかり	会津若松市教育委員会生涯学習総合センター主事
安部久美子	猪苗代町教育委員会(家庭教育担当者)
大竹亜紀	喜多方市教育委員会(家庭教育担当者)
五十嵐美保	会津坂下町教育委員会教育課図書係長
渡部好純	会津地区社会教育指導員連絡協議会会長
増子恵二	福島県家庭教育インストラクター 会津さざなみの会会長
幸田久美子	喜多方市家庭教育支援チーム“もも”代表
紫藤真理子	西会津町家庭教育コーディネーター
星 佳子	西会津町家庭教育支援員
霜鳥佳代子	会津若松警察署生活安全課専門少年警察補導員
※(事務局)	会津教育事務所 5名

4 開催趣旨

この会議は、会津地域の家庭教育の現状と課題を把握し、課題解決に向けた実践活動を推進するため、各郡市PTA連合会・学校代表・企業代表・地域代表による協議を行うものです。

平成30年度より、「メディアコントロール(SNSとのつきあい方を中心に)」をテーマに協議し、昨年度までに課題解決に向けた具体的なアプローチに焦点化して協議を深めてきました。3年次の今年度は協議の成果を域内に広く発信し啓発するための「会津版スマホ・SNS検定」(仮)を作成していきます。

5 内容

(1) これまでの取組 ○成果 ●課題

- 昨年度までの取組経過や成果等について共通理解を図った上で協議を進めた。
- 携帯会社スタッフによる事例紹介等を通して、SNS等のトラブルの現状やフィルタリングの実態などを把握し、委員間で危機感を共有することができた。
- 「届けたいところにどう届けるか」というアプローチの仕方に焦点化した話し合いにより、具体的な方向性が見えた。また、KJ法によるワークショップ型の話し合いにより様々なアイデアをいただくことができた。
- 実践できることから各委員それぞれの取組が期待できるが、次回までは期間があるので、途中の検証が難しい。情報を収集し、連絡調整を図りながら2回目の会議につなぐことが課題となる。



(2) 協 議

○問題提起

今年はコロナ禍により、3ヶ月にわたる断続的な自粛生活の影響による家庭生活の大きな変化がクローズアップされました。特にネット環境の変化はめまぐるしく、ICT オンライン学習、ネット難民による社会格差、ゲーム時間の過多等、メディアやネットを取り巻く問題が取り上げられています。これからの生活においてメディア活用は避けられない状況にあり、子どもだけでなく親にも正しい知識と活用法を知ってもらう必要があります。

会津地区のブロック会議では、「届けたいところにどう届けるか」について、乳幼児検診、就学時健康診断、保護者会、PTA 総会等を利用して啓発していくことが昨年までの会議で話し合われました。しかし、今までは紙媒体の資料配布であったり、HPに掲載したりするというもので、全家庭に届いていないのではないのだろうかといった懸念もありました。

そこで、今までの取組は継続しつつ、今後は、メディアも利用して広く確実に啓発を図ることができるようにしたいと考えました。親を対象とした（親子での取組も可）「会津版スマホ・SNS 検定」（仮称）を作成し、知識を問うだけではなく、よりよい親像を目標としながら取り組めるような検定にしていきたいと考えています。最終的には会津教育事務所のHPにバナーを貼り、クリックすれば検定開始となる環境を整備していきます。さらにはCDを作成して、域内の幼稚園・小中学校・高等学校に配布し、ネット環境のないところでもPCさえあれば再生して活用できるようにしたいと考えています

【グループ協議】



2班

スマホを預ける前に、親子での話し合いが重要で、なぜほしいのか子どもの話をよく聞く。ゲーム利用についても、親子で一緒にゲームをしながらコミュニケーションを取る場面を意図的に持つことが大切。また、親自身もルールを決めて、子どもにそのルールを守る姿勢を示すのがよいのではないかと。

3班

スマホや SNS 利用の問題点として生活習慣の乱れ、悪口、多額請求、親の方が子どもよりネットについての知識が劣っている点が挙げられた。その点を踏まえた検定となるようにしていくことや、「あいづっこ」など会津らしさが前面に出る検定のネーミングを工夫し、で利用促進を図っていくことが大切ではないかと。



1班

親だけでなく、祖父母を含めた家庭内の協力が必要になってくる。親子のスキンシップが大切であるが、子どもと遊べない親、スキンシップを取れない親を地域でどうサポートしていくかも課題である。スマホ活用の視点だけでなく、親が家庭教育を見直す視点も取り入れてはどうだろうか。

【全体会】

- 発達段階（幼稚園～小学校低学年、小学校中高学年、中学生）に応じた検定問題を作成するが、次回の1月のブロック会議までに内容を練って8割方完成を目指したい。
- ネーミングについては、新たにアイデアがあれば、御意見をいただき会津独自のものとして形に残るようにしていきたい。
- 次年度へ向けた取組の方向性として、今年度の取組を残しながら、新たなテーマに取り組むことについての御意見もいただきたい。
- ブロック会議でのつながりを生かして、委員相互が連携してそれぞれの立場でさらなる取組をお願いしたい。
- 広く啓発を図る意味で、学校だけではなく、地域や企業等にも協力を促し、連携協働して家庭教育を支援できるように取り組みたい。



【まとめ】 ○成果 ●課題

〈成果〉

- 昨年度までの取組経過や成果等の報告により、共通理解のもと協議を行うことができた。
- 3年次計画のまとめの年として、「形に残して発信・啓発」することに焦点化した話し合いを行うことができた。「会津版スマホ・SNS 検定」(仮称)に向けて年代別の様々な設問・選択肢・注釈づくりについての具体的なアイデアをいただくことができた。
- スマホ・メディアに関することだけでなく、生活習慣の見直し、運動不足の解消やコミュニケーションの大切さ等についても取り入れる必要があることについても確認することができた。

〈課題〉

- 親子の興味・関心を高め、活用促進につなげるために、会津らしさが感じられる「会津版スマホ・SNS 検定」(仮称)のネーミングを考案することが大切である。
- 検定の形にするまでは時間を要するため、検定案ができ次第、各委員に送付し、御意見をいただきながら修正・改善を加えて2回目の会議に提示したい。